

# 文窓

ふみのまど

神戸大学文学部同窓会 文窓会

会 長:池上 淑子

事務局:〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL(078)881-1212(代) FAX(078)803-5529

<http://home.kobe-u.com/lit-alumni/> (文窓会)

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/> (神戸大学文学部)

7  
号  
2009.9.30



特集/神戸の名社、敏馬神社。

第3回文窓賞 学生レポートコンテスト結果速報

同窓生の近況をお楽しみください。

10月31日(土)は六甲台へ!文学部ホームカミングデイ2009







## 「文窓会」の皆様へ

文学部長・人文学研究科長  
文窓会名誉会長 佐々木 衛

「文窓会」の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。

今年度は第1期中期目標・中期計画の最終年度にあたります。法人化後の6年間の教育・研究、そして部局運営の現況を評価し、22年度から始まる次期中期目標・中期計画を策定いたします。このような大切な時期に学部長を再選された重みをしっかりと受け止めたいと存じます。

新しくなったA棟（本館）を昨年から使用しています。学生の共同利用空間を思い切って拡大したお陰で、快適な勉強空間と充実した教育研究の基礎条件を整備することができました。今年度は、これに引き続いて、B棟（新館）の教育機器の整備・更新を進めていきます。

さて、文学部のアドミッションポリシー（「人文学の高い専門性を追求すると同時に、総合性を高めることによって、人文学の古典的な役割を継承しながら、現代社会に対応しうる人材を養成する」）を実現するために、20年度から日本学術振興会の支援を得て、2つのプロジェクトを推進しています。その1つが、「若手研究者International Training Program」です。このプログラムの目的は東アジアと欧米の諸大学と連携して、大学院生を共同で教育・指導するシステムを構築することです。選抜された数名の大学院生とポスдок（学位取

得者）は、東アジアの大学と欧米の大学にそれぞれ長期・短期間滞在し、東アジアと欧米における双方の東アジア研究を学ぶ機会を与えられます。

第2は、大学院教育改革支援プログラムによる「古典力と対話力を核とする人文学教育」です。大学院生が自主的な研究活動を積極的に進めるために、研究会、読書会などを組織し、この成果をコロキウム、フォーラムなどを通して交流することを目的にしています。21年度は、人文学研究科及び文学部の教育としっかりと連結するよう着実に展開してゆきたいと考えています。

これらのユニークな教育・研究活動は、海港都市研究センター、地域連携センター、倫理創成プロジェクト、日本語日本文化教育インスティテュートが中心になって推進しています。海港都市研究センターでは11月に、設立5周年を記念する国際シンポジウムを企画しています。また、地域連携センターは、歴史文化に基礎をおいた地域社会を形成することを目的に、兵庫県内の地方誌編纂の活動を結びつける中核として活動しています。さらに倫理創成プロジェクトは、環境・医療・工業を中核として現代倫理を追究し、『倫理創成研究』を毎年刊行しています。このように、文学部のアドミッションポリシーを実現するために、センターやプロジェクトなどの活動が地に着いたものとして着実に発展してきました。

卒業生の皆様、機会がありましたら、是非、学舎をお訪ね下さり、後輩たちや若い研究者を励ましてやって下さい。また、文学部・人文学研究科のこれからの新しい発展を見守って下さるようお願いを申し上げます。



## 文学部と文窓会の発展を願って

文窓会会長 16回生  
池上 淑子

このたび（平成21年4月1日）、安部栄治前会長の後任として文窓会会長に就任致しました。初めての女性会長であることに加え、何分にも浅学菲才の身でございますので少なからず不安ではございますが、文学部は他学部と比較すると女子学生の比率が高い学部ですので、女性だからこそ同窓会の発展に寄与できることが有る筈と考えております。幸いにも、新体制は2名の副会長と監査に女性が就任し、従来の役員会と全く趣を変えました。〔文窓会〕も、女性の感性とパワーが加味された同窓会としての特色を出すべく、微力ながら役員共々ががんばって参りたいと存じます。

元来、同窓会活動は会員間の“親睦・交流”を深めることでしたが、さらに、“協力”まで発展させるためには、世代や地域

を同じくする関係は勿論のこと、学生や先生をも含む世代を超えた会員間の縦の関係を深める必要があり、まずはその地固めに取り組む所存でございます。文窓会会員の皆様には一層のご指導、ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

さて、神戸大学文学部は、今の混沌とした社会状況に対応するプログラムとして「古典力と対話力を核とする人文学教育」を企画されており、社会に貢献する学部として評価されるものと大いに期待しているところです。会員の皆様と共に文学部の発展に寄与できますことを心から願っております。

一昨年文学部も修復改装工事が完了し、海と山に囲まれた大学にふさわしい、明るくモダンな学舎が完成しました。本年は10月31日（土）にホームカミングデーが開催されます。当日は、会員相互間に加え先生方や学生達とも交流と親睦を深める機会でもありますので、ぜひ母校をのぞいて頂ければ幸いと存じます。

最後になりましたが、文窓会会員の皆様のご活躍とご健勝を心より祈念申し上げます。

神戸大学文学部生の夢、ビジョン、活躍を応援する

## 第3回 文窓賞

学生レポートコンテスト 結果発表

今、神戸大学文学部で学ぶ学生たちのさまざまな生き様を応援する＜文窓賞＞レポートコンテストも、今年で3回目。9月24日に開催の佐々木 衛学部長と文窓会役員の選考委員による選考会で、下記の作品が選ばれました。

■最優秀賞（表彰状と賞金10万円）

おめでとう

「空港の自動ドアを抜けてー海外旅行体験を通じて思うことー」

高内 江梨子（社会学専修4年生）

「何よりも好きな瞬間がある。外国へと降り立ち、空港の自動ドアを抜ける瞬間だ。」こんな1行から始まるこの作品で、高内さんは、「これだけ情報が氾濫する現代でもどこか遠い存在」の外国で起きる様々なことを、海外旅行での実感と対比することで、身近に感じ、自分にも起こることとして考えられるはずと主張。行動に裏打ちされた広い視野からの問題提起が評価されました。

■優秀賞（表彰状と賞金3万円）

おめでとう

「シアトル、そしてこれからの私」 河本 久葉（英米文学専修4年生）

「神戸大学海外インターンシップ派遣生」3人の1人として、シアトルの兵庫県ワシントン州事務所で体験した「秋祭り」イベントのブース企画運営。その中で学んだことの数々と、帰国して見出した「やりたいこと」が、素直できめ細やかに綴られています。

「三千円もらって心が重くなった話」 田島 真（社会学専修4年生）

アルバイトで小さな個人経営の学習塾の講師をしていた頃のこと。サボタージュのためについたささいなウソが、オバサン世代のM先生の心を開き、思いがけない三千円の小遣いをいただいたのだが、心にチクリと痛い体験を「思い出せる限り書き出して、自分の中で整理をつけたかった」という作品です。

応募してくれた皆さん（図書券5,000円分）

・梅田 紘輝 哲学専修 3年生    ・河野 奏 社会学専修 3年生  
・塚本 京平 社会学専修 4年生    ・三宅 陽平 哲学専修 3年生（※あいうえお順）

\* 優秀作の表彰は10月31日の第4回文学部ホームカミングデイにて行います。

\* 入賞者3名の受賞レポートは冊子にして同日の文窓会総会時に配布いたします。

### 選考を終えて

新型インフルエンザによる休校などイレギュラーな出来事による影響か、今年は7作品の応募に止まりました。とはいえ、昨年をしのぐ力作や、文学部らしいエッセイ風など個性派の作品の応募もあり、選考会では様々な視点からの活発な意見交換がありました。

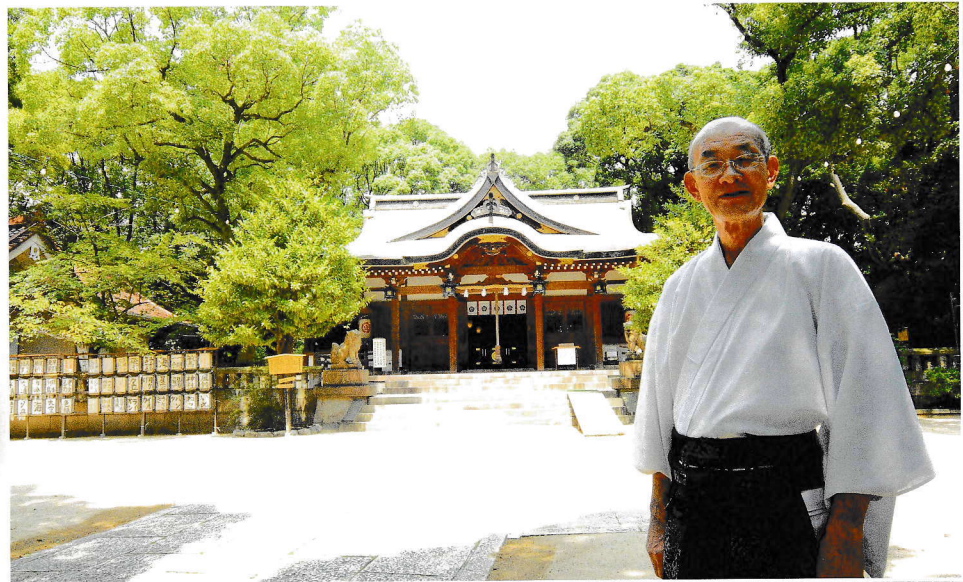
◎選考基準：元気で個性的な学生生活の独創性や発展性に対する評価と、その活動や体験が社会をどれだけ納得させる力があるかによって選考。

◎選考委員：佐々木 衛 学部長 日高 健一  
池上 淑子 鞍井 修一 花木 直彦  
廣野 幸夫 西川 京子 武藤 美也子  
田中 睦子 坂本 直樹



# 神戸の名社、敏馬神社。

玉藻刈る 敏馬を過ぎて  
夏草の野島の埒に舟近づきぬ  
(柿本人麻呂)



敏馬神社と花木宮司

## 敏馬、読めますか？

兵庫の難読地名の一つ、敏馬は一般に「みるめ」と呼ばれているが、正しくは「みぬめ」と読む。JR灘駅からまっすぐウォーターフロント地区のHAT神戸に向かう途中、国道2号線沿いに左折してすぐ。こんもりとした森の中にある敏馬神社は、今年で1808年もの間、岩屋・HAT神戸・味泥・大石地区の氏神様として、このあたりの地を守ってきた。

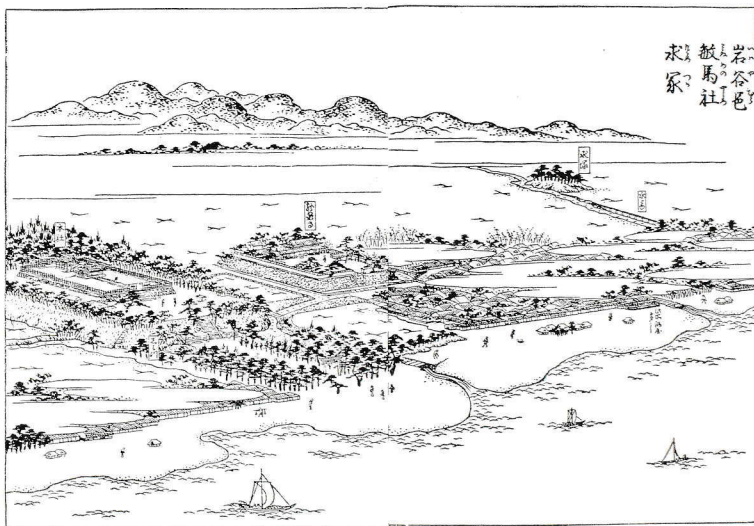
なぜ正確に創建の時のかわかるのかというと、摂津国風土記に、201年神功皇后が朝鮮出兵の帰路、船が止まったこの地に美奴売(みぬめ)山の神様を祭ったという縁起が残されているからだ。万葉集をはじめさまざまな歌集に、敏馬

を詠んだ歌が収録され、江戸以降は俳人も句を詠んだ。

平安時代に編纂された延喜式にも「生田、長田、敏馬」と記載された市内最古の神社の一つである敏馬神社の宮司、花木直彦さんは昭和36年卒業の9回生、専攻は国史学であった。

「この神社のある高台は、昔は海に突き出た岬で、東側が入り江になっていて、敏馬の泊<sup>とまり</sup>と呼ばれる神戸で最も古い港だったんです」

花木さんが丹念に集めた古い資料を拝見しながら、まずはこの地と神社の変遷を伺った。



摂津名所図会(江戸時代)より

## 「摩耶詣で」と蕪村 .....

江戸時代から明治頃まで、敏馬は「摩耶詣で」の往来で大いににぎわった。これは旧暦2月の初午の日に、近郷近在の村人が馬を連れて摩耶山天上寺に参詣し、馬と一家の無病息災と繁栄を祈願したという風習で、蟻のごとく人々が詣でたと記されている。浜街道に沿ってやって来たお参りの人々は、敏馬からまっすぐに続く摩耶山を目指した。俳人の与謝蕪村が一門を引き連れしばしば訪れたことでも知られ、名句「菜の花や 月は東に 日は西に」は摩耶詣での帰り道に摩耶山の中腹あたりで詠んだ句といわれる。



## 大和時代から江戸へ港の変遷

大和時代から奈良時代中期までは、大和の都と中国大陸や朝鮮半島との往来は、この敏馬が畿内への表玄関であった。大陸や半島からの使者は敏馬で上陸し、大和朝廷の歓迎式に臨んで、「生田社で醸した酒を敏馬でたまわる」ことで都へはいるための穢れを祓ったという。

やがて港は敏馬から大輪田(兵庫)へ移り、平安時代以

降は白砂青松の敏馬の浦として、藤原定家や兼好法師、さまざまな歌人により和歌に詠まれた。江戸時代中頃には、日本一の酒どころ「灘五郷」の一つ、西郷として栄え、江戸へ酒を運ぶ樽回船の行き来も活気を添えた。人・物・金でにぎわうところには、花街ができる。海に面した敏馬神社の両側は、130人近い芸妓を擁した検番が置かれ、昼間でも三味線の音色が流れる粋な街でもあった。

## 近代化が進み大工業地帯へ

のどかな風景が一変し始めたのが、明治から大正、昭和にかけての近代化の時代だ。第一次世界大戦後、好景気に沸く大阪と神戸の間を、大正15年、東洋一の都市間道路が整備され、路面電車が大阪・野田と敏馬神社のすぐそばの脇浜町電停を結んだ。それまでは海に面した鳥居からまっすぐに長い参道が続いていたが、国道が横断するため鳥居を国道の際まで移設した。松林には洒落た別荘と並んで「敏馬ポートハウス」(神戸高商・関西学院など)があり、旧居留地の外国人たちのKRAC(神戸レガッタ&アスレチッククラブ)、神戸帆船クラブ、神戸ヨットクラブなどマリンスポーツの拠点として賑わったが、昭和の初めに砂浜は埋め立てられ、製鉄所が並ぶ大工業ゾーンへと姿を変えていった。



大正時代の敏馬浜。右端が敏馬神社

## 2度の危機を乗り越えて

昭和13年生まれの花木さんは、幼稚園児の頃に耳にした三味線の音色を覚えているという。そして小学校に上がる昭和20年の3月と6月に神戸大空襲を体験した。

長い歴史を刻んできた敏馬神社は、過去2回、壊滅的な被害に遭ったが、1回目がこの空襲であった。特に6月の空襲では阪神間が焼け野原になり、歴史ある鎮守の森も焼失した。

そして平成7年、2回目の被害、阪神・淡路大震災に見まわれた。花木さんの家族には幸い人的被害はなかった

ものの、木造の本殿が倒れ、拝殿が大きく傾き、社務所は2階建てが1階の高さにへしゃげて、石の鳥居は倒壊した。神戸の中でも最も被害の大きかった地区の一つでもあった。神社内の倉庫に寝泊まりしながらも、昼間は町会長として町内の救援や支援に飛び回ったという。やがて氏神さまを再興しようという地元の思いも高まり、敏馬神社の復旧工事が始まった。

「修復は本殿の屋根を持ち上げ、下から倒れた材木を組み直す大がかりなもので、たいへんでした」

## 留学生を支援 .....

花木さんは長年勤めた教員を辞めたとき、たまたま神戸市が主宰する市民教室で神戸大学のタイからの留学生にタイ語を教わった。その学生と意気投合して以来、一緒に習う友人たちとタイの学生との交流が続いている。講師役の留学生が帰国するたびに新しい留学生が講師となり、気がつけば20年余り。「タイへ行くとみんな、集まってくれるんですよ」と花木さんの相好がくずれる。



(上) 各国の留学生を支援  
(右) かつてタイからの留学生が神前でダンスを奉納したことも





## 21世紀、ウォーターフロントの氏神として

敏馬神社は再び歴史を刻み始めた。神戸製鋼や川鉄の工場は移転し、跡地はHAT神戸と呼ばれる、復興住宅エリアや兵庫県立美術館、人と防災未来センターなどが並ぶ明るいウォーターフロントに生まれ変わった。あれから、もう来年で15年になるのだ。

きれいに整備された周囲の街並みを歩いてみると、もしお話を聞かなかったら、この地がそんな変遷を経て今の姿になったとは想像すらできないと思う。昭和12年に完成したJR灘駅のレトロな駅舎は、もう間もなく新しい駅舎に変わる。卒業後、神戸を離れた会員の皆さんも、神戸を訪れる機会があれば、ぜひ敏馬神社に立ち寄り、時の流れを感じてみてはいかがだろう。（文責・たなか）



敏馬神社  
神戸市灘区岩屋中町4丁目1-8

## 文学部1年生の演習と敏馬神社（日本史学 奥村 弘教授にご紹介いただきました。）

文学部の1年生向けに毎年前期に開講している「人文学導入演習」（今年度は古市先生（日本古代史）と河島（日本近現代史）が担当）で、毎年5月下旬から6月上旬にかけてのいずれかの休日に、学生を引率して神戸市内をフィールドワークしています。

この演習は、文学部に入学した1年生に人文学の基礎を学ばせると共に、文学部での学習の訓練（特に演習で発表したり討論したりする方法の訓練）を積ませることを目的に複数の専修の教員が開講しているもので、日本史の教員が開講している「人文学導入演習」は、毎年10～20人程度の学生が受講しています。

1年生だけでなく、神戸大学で学び始めたばかりの研究生や留学生も受講し、大学院生がチューターとして参加しています。

この授業では、前半に神戸大学文学部日本史の関係者が執筆に加わった「歴史のなかの神戸と平家」という本（神戸新聞出版センター）をテキストにしており、この本に登場するゆかりの地を、フィールドワークでは訪れています。

敏馬神社は、この付近に古代の港があったとのことで、その関係から毎年欠かさず最初の訪問地を選んでいきます。当日は敏馬神社について調べてきた学生が境内で説明を行い、その後境内に掲げられている絵や写真（花木さんが設置されたものだと思いますが）、あるいは灯籠を見て説明を加えたり、倒壊した鳥居を素材に阪神・淡路大震災の話をしたりしています。古代からのゆかりのある敏馬神社は、生きた歴史教材として、日本史を学びたいと思っている学生たちを歴史の世界にいざなう貴重な役割を果たしてくれています。

## 旧文学部御影学舎跡地がランドマークに

戦後の新制第9回の神戸大学文学部生となった花木さんは、「六甲台を知らない先輩世代」の1人だ。当時の文学部は教養課程が旧御影師範の校舎と姫路に分かれ、専門課程は御影で行われた。

歴史をさかのぼると、1921（大正10）年～1925年（同14年）まで、この地で御影師範学校の英語教諭として教壇に立ち、また恋愛結婚をして2児をもうけたのが、キリスト教徒でもあった詩人八木重吉だ。御影を離れ2年後に29歳の若さで世を去った八木にとって、人生の最も豊かなときを詩に紡いだ至福の地であったに違いない。



旧御影師範跡地にそびえる47階建てのタワーマンション  
（阪神御影駅山側・国道2号線との間）



すぐそばに、こんな悲恋の伝説が

# 神戸大学近くの歴史ロマン「菟原処女伝説」

敏馬神社の東50mのところに前方後方墳がある。

江戸時代に書かれた『摂津名所図会』にも「岩谷邑 敏馬社 求塚」と一画面に描かれている。

これは現代では西求女塚と呼ばれている。何を求めたというのか。その話は『万葉集』に残されている。

「昔この菟原<sup>うはら</sup>の里に美しい娘が住んでいた。彼女の噂は近郷近在に鳴り響いており、彼女を一目でも見たいと多くの男たちがやって来た。その中でも二人の男が特に熱心で彼女に結婚を申し込んだ。そうすると彼女は『どちらかを選ぶことはできない。あの世で待っています』と母親に言い置いて身を投げてしまう。それを聞いた二人の男たちも直ぐさま彼女の後を追って死んでしまう。残された親戚の者たちは憐れに思い、この三人のことを思い出してもら<sup>よすが</sup>う縁になるようにと、女の墓を真ん中に、その左右にそれぞれの男の墓を造ってやった。」

というわけである。しかし『万葉集』にはもっと気になることが書いてある。「彼女のお墓の上の木が、東の墓の方にばかり枝を靡かせている。この木は、彼女の櫛を埋めたものであったところから、彼女はやはり東の墓の男(茅渟<sup>ちゆ</sup>壮士)のことが好きだったのだ」というのである。現代っ子なら「それなら好きな人とさっさと結婚すればいいじゃない。死ぬなんて信じられない」というだろう。その通りだが、この女性は特別な立場にある女性だったと考えられている。その後この物語は「菟原<sup>うない</sup>処女<sup>おとめ</sup>伝説」として平安時代の『大和物語』や室町時代の謡曲『求塚』そして森鷗外の『生田川』へと受け継がれ、その時代を映しながら変化していく。日本人の心を捉え、いろいろなことを教えてくれる伝説なのだ。

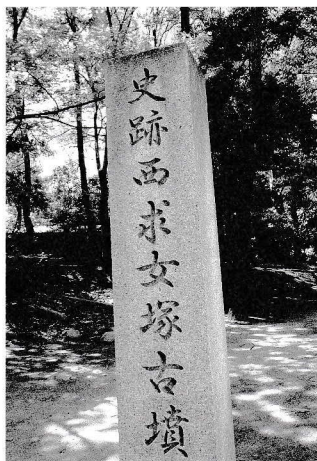


処女塚: 東灘区御影塚町2丁目

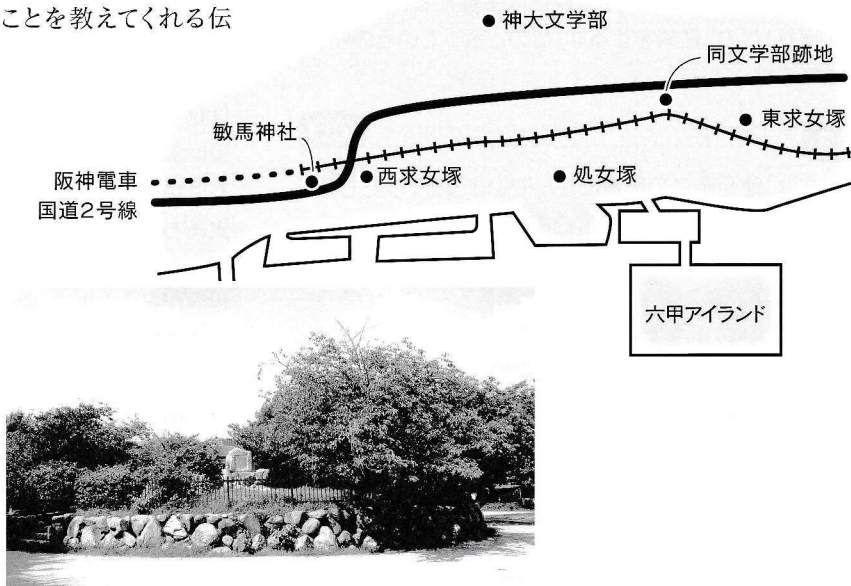
三つの古墳は、西から西求女塚(菟原壮士)、真中に処女塚(菟原処女)、東が東求女塚(茅渟<sup>ちゆ</sup>壮士)だ。そのうちの二つの古墳は県の史跡指定を受けて保存されている。主人公の菟原処女の「処女塚」は東灘区御影塚町二丁目にある。我らの神戸大学・鶴甲学舎の西の道路・六甲山トンネルから下りてくる道路をまっすぐ下り、43号線に出るすぐ手前の東側の道路に面した所にある。

我々の母校はファッショナブルな神戸だけでなく、この様なロマンあふれる歴史の町でもある。ぜひ一度訪れてもらいたい。

(文責・武藤)



西求女塚: 灘区都通3丁目1



東求女塚: 東灘区住吉宮町1丁目(記念碑のみ)



## 文窓会に新しく仲間入りしました!

### 皆さんへの質問

- Q1** あなたの職場、職業、仕事の内容は?
- Q2** 社会人って甘くないと痛感したことは?
- Q3** 大学や六甲、神戸でどんなことが懐かしい?
- Q4** 最近、あなたが一番刺激を受けたことは何?
- Q5** あなたの今後の抱負やビジョンは?



### 奈良県立の定時制単位制高校で 大学進学を選べない生徒の現実に直面。 ショックでした。

門脇 友樹 国文学専修(鈴木ゼミ)

#### Q1

地元奈良県の公立高校教員採用試験に通りまして、現在は、奈良県立大和中央高等学校という定時制単位制高校にて、国語の教員をしています。授業で国語を教えるのも大事な仕事ですが、それ以上に、いわゆる生徒指導上の仕事に「大変さ」と「責任」を感じています。

#### Q2

朝が早い。大学時代はおかげさまで、ぐうたらな4年間を過ごさせていただいたのに、現在は生徒たちに、やれ「時間を守れ」だの「遅刻をするな」だのと言っているのが、不思議な感覚です。

#### Q3

今現在は、地元奈良の実家に住んでいますが、今でも休みの日は神戸に遊びに行ったり、ご飯を食べに行ったりするので、懐かしく思い出すというよりは、身をもって懐かしんでいます!食べ物で言えば、よく行った三宮のラーメン「山笠ラーメン」やカツ丼の「吉兵衛」は、今でも神戸に行くたびに寄っ



ています。そして、毎日のように足を運んでいた、というより、本当に毎日行っていた、桜口交差点の「吉野

家」。本当にお世話になりました。二年間と少しの間六甲道近辺で下宿をしていましたが、あの吉野家が僕の食生活の軸であり、学生時代の思い出の大半であります。そして言わずもがなLANSの食堂は牛丼しか食べない僕の貴重な栄養源となってくれていました。

#### Q4

刺激を受けたことというよりは、ショックを受けたことになるのかもしれませんが、僕自身は神戸大学で、4年間、楽しい学生生活(モラトリアム)を謳歌し、今はその反動か、一生懸命仕事を頑張ろうとしています。しかし、僕が今現在働いている学校の生徒の大半は、大学(短大、専門学校含め)進学はせず、そのまま就職をします。その現実に、少しショックを受けました。「自分が当たり前のように選んだ道に、この子たちは色々な事情があって進めないのか…」ととても淋しい気持ちになりました。勿論勉強をするのが学生の本分ではありますが、大学では、色んな人との出会いがあり、色んな世界が見えてきて、色々と自分の将来や、自分のことを考える時間があり、自分のやってみたい事を試すチャンスがいっぱいあると僕は考えています。その4年間を選ぶことを許されない子がいるということを知ったことが、最近ショックを受けたことであります。

#### Q5

社会的に「偉く」なっても、どれだけ年齢を重ねても、一生懸命ふざけ続けたいなと思います。それだけです。





## 憧れだった海外貿易の仕事でパソコンの出荷をサポート。 学生会館からの神戸の夜景、忘れない。

成田有衣 西洋史専修

### Q1

東芝のPCカンパニー/欧州営業部に配属され、東京・浜松町で働いています。営業といっても、ヨーロッパ向けに輸出するパソコンの生産管理を行っています。ヨーロッパの現地法人与自然の工場をつないで、出荷がうまくいくようにサポートするのが主な役割です。

### Q2

会議で使用する資料や、メールを作成する際に、表現に気を付けることです。英文メールを全文、添削されたこともあります。例えば、「工場の人に出荷前倒しを促す」という文を英訳するとします。「促す」は「pushing」では強すぎるので、「following up」という柔らかい表現に変えなさいと指導されました。

### Q3

ESSの部活動後に、学生会館から見る神戸の夜景が好きでした。学館は、ESS最大のイベントである一週間英語づ

けの夏キャンプに向けて、話し合いやダンスの練習をした思い出深い場所です。部活の運営に悩んだときも、キラキラと眼下に広がる神戸の夜景をみて「がんばろう」と思えました。

### Q4

私は北村薫さんが好きなのですが、先日直木賞を受賞された「鷲と雪」が素晴らしかったです。昭和11年の東京が舞台なので、東京で読むことができて幸運でした。社会人になってから新聞や本をよく読むようになり、大学生のときにもっと読んでおけばと思いました。

### Q5

憧れだった海外貿易の仕事に就けて、とても嬉しく思っています。もっと見聞を広げるために、いつか海外に長く滞在できたら、という夢をもって働いています。また、結婚して家庭をもち、いつも周りに感謝できる素直な人でありたいです。

## 銀行の融資課で事務中心の仕事を。 事務ミスをしないうプレッシャーを感じる毎日です。

辻井浩気 哲学専修

### Q1

池田銀行です。現在は営業店の融資課にて事務中心の仕事をしています。

### Q2

銀行はお客様(預金者)からお預かりしている大切なお金を扱います。だから、もし事務ミスにより一円でも計算が合わない大変な「事故」になります。私はこのような感覚に未だ順応できず、毎日プレッシャーを感じています。一度事務ミスを犯したことがあるのですが、その時には今まで流したことがないような種類の汗が滲み出てきました。

### Q3

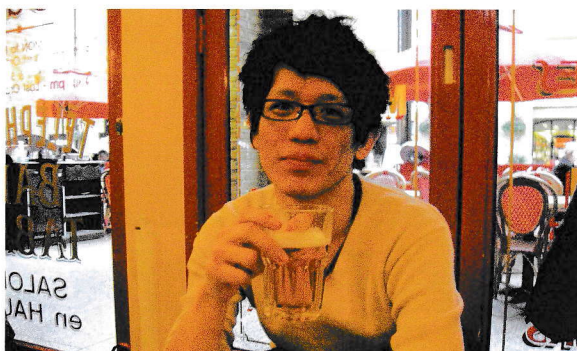
通勤時に、阪急十三で京都線から宝塚線に乗り換えるところを誤って神戸線のホームに降りてしまうことがたまにあります。

### Q4

思い出せません。

### Q5

秘密です。



卒業旅行にて



## きっと大学時代から変わっていない

松原 明 社会学専攻 34回生

(特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会事務局長)

神戸大学文学部では、哲学科で社会学を専攻していた。

25年くらい前のことだ。当時は、哲学ではポスト構造主義が流行っていて、日本語とは思えない文章だったにも拘わらず、フーコーやデリダなんかを懸命に読んでいた記憶がある。社会学では、ウェーバーの「支配の社会学」やウォーラス・ステインの「近代世界システム」を読んでいて、卒論は「近代国家の成立と構造」というタイトルだった。

要は、一元的な権力構造が大嫌いで、どうすれば多元的な社会が可能か、ということが関心の的だった。会社の肩書や政治的な地位で、人間関係が決まるのではなく、もっと様々な役割を個人が持てて、上下だけでない人と人とのつながりを自由に作るにはどうしたらいいのか、という問題意識だったのだと思う。

同時期に、国際的な人権活動を行っているNGOの活動にボランティアとして参加するようになった。

大学を出て、広告制作会社に勤め、独立してフリーランスのコピーライターや経営コンサルタントをしながらも、NGOのボランティア活動は続けていた。

NGO/NPOといった市民活動の世界は、しんどいところもあるが楽しい。福祉や国際協力や環境といった社会的課題ごとに人が集まり、そこでは、会社や政治やお金とは関係ない新しい人間関係を生み出すことができる。そして、その人間関係が、社会問題解決の大きな力となっていくからだ。

世界各国で、この新しい市民活動が急速に発展している様を見聞きて、日本でも、市民活動を発展させていくことは急務だと思った。



1994年に企業の世界から足を洗い、仲間とともに、シーズ・市民活動を支える制度をつくる会というNPOを立ち上げた。NPO法(NPOが簡単に法人化できる法律)やNPOへの寄付促進税制を作ろうという組織だ。

今度は、民法や税法という法律関係の本をたくさん読まなければいけなくなった。ここでも、また日本語とは思えない文章と格闘だった。付き合う人々も、税理士や弁護士、大学教授などが増えた。本当に、市民活動の世界は、想像もしなかった人との社会関係を作り上げていくものだ実感したものだ。

NPO法は、1998年に無事立法することができた。寄付促進税制も2001年に創設した。現在は、NPO法人の会計基準づくりという新しいチャレンジをしているところだ。

多元的な社会の実現を、という願いはたぶん大学の頃と同じだ。最近会った大学時代の友人から「松原は全然変わらないな」と言われた。きっとそうなのだろう。

## 絆を感じた国文16回生同窓会



国文の16回生は、10年前より神戸岩岡で毎年開催される板橋文夫ジャズコンサートに誘い合って参加するなかで旧交を温めてきました。このコンサートは15回生の南(馬場)輝子さんの主催で続けられた実に素晴らしいイ

ヴェントでしたが昨年で終わりました。

今年の同窓会は、神戸女子短期大学の武藤(玉田)美也子さんに「沖縄—まつりの様相」と題して彼女の25年に亘る研究を、貴重なビデオを見せてもらいながら聴くという企画で、6月26日にもたれました。

武藤さんは沖縄の全ての祭祀を調べ、26祭祀・31事例・8000余枚の写真をデータベース化されたのです。恩師永積先生の沖縄とのかかわりが、彼女の研究でこういう形にまとめられたことに感銘をおぼえます。そして出席した11名は、武藤さんの「沖縄は私にとっては遊びに行くところではありませんでした」という姿勢に同世代として深く共感し、身を乗り出して聴き入りました。

武藤さんの研究に永積先生を偲び、卒業後41年経った今も「沖縄」で結びつくことができるのは「全的生き方(トータルな人間)」を提唱されていた猪野先生の思想が、さらに個と個の見えない関係をいつも結びつけて下さっ



## 振り返れば六甲・土と戯れる現在『定年菜園のすすめー シンプルなオーガニックライフ』

高堂敏治(菜園研究家) 哲学専攻 1970年卒業

振り返れば、六甲の緑の山なみに包まれた文学部の学舎。60年代半ばから学生運動にあけくれ、そして、苦しい煩悶のすえの離脱。1年2ヶ月の留年後、私が哲学科を辞めて卒業したのは、まだ激しい大学の嵐が吹き荒れる1970年の5月のことであった。

ところが、卒業はしたものの、まだ自身の生き方をつかむことができず、酒に溺れるデカダンスの生活がつづく。積極的な就職活動をしなかったのであるから、当然就職もままならない。ともかく、食にありつくための野良犬のような日々。

工事現場の日雇い労働、印刷会社の下請、ガードマン、市役所の夜警アルバイト、コピーライターなど、職を転々としていた。そして、年齢も既に28歳になった頃、文芸仲間のすすめで地方公務員試験を受け、ようやく定職に就いた。

そんな私ではあるが、卒業から40年の歳月が流れてしまった現在、名刺には「菜園エッセイスト」という文字を刷り込んでいる。文学部の多くの同期生と同じく、卒業後はあまりいい人生を送ってきたとは思わないが、名刺にそんな文字を載せるような幸福な出逢いもあった。生き甲斐ともなった菜園との出逢いである。

なぜ、野菜作りを始めたのですか？ とよく聞かれる。「少年期をすごした北陸富山の農村の記憶が残っているのでしょうか、心のどこかに土の匂いや、四季折々変化していく自然への愛着のようなものがあるのかな？ 菜園の緑に包まれていると、生きている実感がして、とても心安らぐのです」とインタビューには答えている。

先日、朝日カルチャーセンターの公開講座を引き受けた。講座名もテキストもこの春に刊行したばかりの『定年菜園のすすめ』(東京・土屋書店)。30歳代から伊丹市の休



耕地で始めた趣味の野菜作りが、のめりこんで道楽となり、30年後には、菜園研究家の看板をあげたような次第。

第1回目の講座はとにかくシニア世代であふれ、教室は定員オーバーの状態。定年退職後のシニアライフをどのように過ごすか、そのことがとても大事な課題になっていることが分かる。また、「安全と安心」の食や農について関心がいかに高く、野菜作りをやってみたい人が実に多いことも。

「無理、無駄のない有機栽培」という私の年来のテーマを基本に、土作りから収穫まで、料理例なども交えて、具体的な野菜の栽培方法の話をしてみた。ところが、後半部の質問コーナーでは熱心な質問で時間延長になり、受講者の熱意には驚くばかりであった。

これには序文「詩を秘めた菜園」を寄せていただいた作家の立松和平さんが説明してくれそうな気がする。

「古代インドの人生の考え方に、四住期がある。一人前になるために学び修行する学生期、家族のために働き戦争が起これば国のために兵士ともなる家住期、家族や社会への義務を果たし本来の自分にたち帰って好きなことをやる林住期、そして、究極の死を見据えて最後の生を送る遊行期である。この考え方からいえば、定年菜園は本来の自分にたち帰るのであり、これまで妻や子や社会のために我慢してきた理想をいよいよ実現する林住期にあたる。」

やはり、この林住期には晴耕雨読の菜園ライフがふさわしい。緑に包まれた菜園に行けば、日々ちいさな発見とちいさな感動があり、また食べることが生きることであることを直接体験できる。この菜園との出逢いが、卒業後の私の人生を、少しだけ変えてくれたのが嬉しい。

ている島田先生ご夫妻の力があることを感じました。

この会には、縁結びをしてくださった南さん、「ゆうゆう会」の先輩の尾末さん、2年前に逝去された井上(本田)さんのご子息(大学院で民族音楽研究中)とその友人のフランスからの留学生(沖縄の三線を研究)と、多彩な方々が集ってくださり、お蔭で会は一段と輝きました。

この講演の後には、近くのレストラン(ルセット)に席を移し、美味しい料理と話に時を忘れ、再会を約して家路につきました。

お互いに現在の方が学生時代より親しく深くお付き合いができるようになりました。「同じ釜の飯」といいますが、共通の考え方が根底にあり、疑念を抱かぬ信頼感と安心感のはけがえのない宝です。あらためて、神戸大学国文で素晴らしい諸先生方に頂いたご恩と、優秀な友人たちに恵まれた幸運を再認識した素晴らしい同窓会でした。



立松和平氏 絶賛!  
土屋書店 1470円(税込)

### 【筆者について】

高堂さんは文芸評論集「村上一郎私考」(白地社)、「感受性の冒険者」◎北川透(風琳堂)、詩集「鬼がいる」(あんかるわ叢書)など著書多数。2004年に毎日新聞社「毎日農業記録賞」を受賞されています。



振り返れば六甲の山並み～あの頃の友に会いたい

## 第4回 神戸大学&文学部ホームカミングデイ2009

— Kobe University Homecoming Day 2009 —

10/

31 土

### 神戸大学ホームカミングデイ2009

記念式典会場の六甲台講堂は、卒業生、企業、団体からのご厚志により生まれ変わっての初披露。本学の前身校である神戸高等商業学校卒業生であり、出光興産(株)の創業者である出光佐三の名前を冠し「出光佐三記念六甲台講堂」として神戸大学に新しい歴史を刻むことになりました。

今回は、在学生にも積極的に参加を促し、学生が主体となって学部で工夫をこらした企画を用意しております。

多数ご参加くださいますようお願いいたします。

■記念式典/10:30～12:00

■会場/出光佐三記念六甲台講堂(登録有形文化財)  
※招待者のみ

※詳しくは下記のホームページを参照。

神戸大学 ホームカミングデイ

<http://www.kobe-u.ac.jp/hcd/index.htm>

### 文学部ホームカミングデイ2009



KOBE  
UNIVERSITY

< 併設企画 > 13:20～16:30

(文学部 B棟152教室前)

- ・地域連携センター
- ・海港都市研究センター
- ・倫理創成プロジェクト
- ・日本語日本文化教育インスティテュート
- ・大学院教育改革支援プログラムの関係展示

- |             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 13:30～14:00 | 受付 会場 文学部 B棟152教室                |
| 14:00～14:10 | 文学部長挨拶                           |
| 14:20～15:20 | 三木正之名誉教授による講演会<br>「漱石の『こころ』を読む」  |
| 15:30～16:20 | 第3回文窓賞(学生レポートコンテスト)<br>入賞者授賞式    |
| 16:30～18:00 | 懇親会 文学部 A棟学生ホール<br>(参加費: 2,000円) |

■お問い合わせ先 人文学研究科総務係

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 Tel: 078-803-5591

※詳しくは下記のホームページを参照。

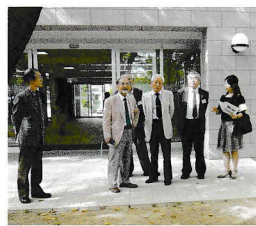
文窓会(文学部同窓会)

<http://home.kobe-u.com/lit-alumni/>

※第3回文窓賞(学生レポートコンテスト)入賞者の作品は、近日リニューアルのホームページ「文窓」でお読みいただけます。

### (昨年の文学部ホームカミングデイの様子です。)

2008年9月27日(土)に開催の第3回文学部ホームカミングデイでは、特別企画として、耐震工事と環境整備を兼ねた改修後の学舎巡見があり、在学生の案内で、教室や図書館など新しい施設を見学しました。



講演会では、大津留厚教授と長野順子教授により「青野原俘虜収容所: ウィーンでの展示と演奏会」の様子が、画像と音響を使って紹介されました。神戸大学交響楽団による現地演奏会のCDによる再現では、会場となった現地の歴史的建造物の重厚なたたずまいの画像と相まって、時空を超えたひとときを満喫できました。



また、第2回文窓賞(学生レポートコンテスト)入賞者授賞式では、表彰状を受け取った在学生のフレッシュな喜びのコメントに、先輩方からの熱い拍手が贈られ、会場はぐんとハートウォーミングな雰囲気になりました。



お楽しみの懇親会では、在校生を交えて教職員の皆さんと世代を超えたおしゃべりが弾む、充実したホームカミングデイとなりました。



今年も新卒の皆さんから先輩諸氏まで、ぜひ、懐かしいキャンパスを訪ねてみてください! 心よりお待ちしております。

### 文窓会主催・卒業記念ウェルカムパーティ

●3月25日 卒業式・修了式が終わった午後、LANS BOX2階で文窓会主催の平成20年度卒業祝賀会が開かれました。

途中降った雨も上がり、大阪湾を見晴らす東の空に虹がかかっていました! 天からの素晴らしい贈り物ですね。





## 神戸大学応援団総部創立50周年記念 21世紀にふさわしい神戸大学の ニュー・カレッジソング 歌詞募集

昭和35年(1960年)神戸大学にも応援団が呱呱の声をあげました。10人にも満たない小さな団体でしたが、意気高らかに神戸大学の一体化を目標にかかげ、顧問に当時前学長の古林喜楽先生をいただいたスタートでした。

諸先輩はその趣旨に賛同してくださり多額の寄付をいただき、お陰様で発足当初からプラスバンドも持つことができました。

それから50年、神戸大学応援団総部は体育会、文化総部のみならず大学のあらゆる行事活動に積極的に参画し、大学の発展にいささかなりとも寄与して参りました。

来年平成22年5月3日の記念式典を中心に各種の記念行事を企画しており、その一つに日ごろ明るく快活に口ずさめる**ニュー・カレッジソング**の歌詞募集があります。

昭和36年に誕生した古林喜楽元学長の作詞になる応援歌「宇宙を股に」を始めとして、学生歌「この丘陵に」応援歌「燃ゆる想い」「栄光は常にわれらに」などが節目節目に募集され、平成4年鈴木正裕元学長の英断により現学歌が制定され現在に至っております。

今回は愛唱歌、応援歌など形式は問いません。

8月に選出の審査委員会で審査し、作曲・編曲の上22年

4月に発表いたします。

別記募集要項により国籍を問わず大学関係者挙げて多数ご応募くださいますようお願いいたします。

神戸大学応援団総部 創立五十周年記念事業実行委員会

- ・ 翔鷹会 会長 藤原 規洋(53法)
- ・ 吹奏楽部OB会 会長 蔭山 慎吾(52教)
- ・ 実行委員会 委員長 藤井 良隆(38経)
- ・ 同 事務局 長 荒木 茂幸(41法)

応募資格 神戸大学学生 同卒業生  
神戸大学教職員 同OB

内容など 気軽に口ずさめる愛唱歌・応援歌  
言語は日本語(一部に英語を含むことも可)  
長さは3番まで

締め切り 平成21年11月20日

採用歌 30万円

佳作2点 各5万円

応募先 (原稿送付 問合せ) 神戸市灘区六甲台町2-1  
神戸大学三木記念館 (社)凌霜会気付  
応援団50周年実行委員会 担当藤井  
Tel : Fax 078-882-5335  
e-mail ouenka@kobe-u.com

## 文窓会ホームページが今秋リニューアルします。

### ごあいさつ

この度ご縁があり、文窓会のホームページを担当させていただくことになりました。文窓会のホームページは、国文学8回生の萩紀男氏が、その立ち上げ及び運営にご尽力され、今の形に至っています。萩氏および先輩諸氏の苦勞に恥じないよう努力していく所存です。

さてご存知のように、昨今のITをめぐる変化は激しいものがあります。

私自身、ワープロに初めて触れたのが学部生のときでした。文学部の社会調査室で、一台数十万円のワープロ専用機を学生数人で取り囲み、モニター上で変換される文字に目を見張りました。1980年前後のことでした。

80年代半ばに、私は社会調査室の教室助手を務めました。その頃、調査室にもパソコンやソフトが次々に導入され、それを機に、専攻生名簿の電子化を行いました。データ打ち込みの作業にあたった学部生のみならず、技術面で協力を得た卒業生もボランティアでした。授業や仕事の合い間に、皆さんに積極的に参加していただいたのを思い出します。当時は、パソコンはもちろん、キーボードさえ触れるのが初体験の学生も多かったのです。

その後、私は関心の赴くまま様々な仕事に従事しました。カ

坂本直樹 社会学専攻 32回生

メラマン、広告制作のマネージャー、プロ家庭教師、玩具の個人輸入・・・節操のない生き方で我ながらあきれます。しかし、そんな私の人生でも一つ言えるのが、年々ITに依存する度合いが増え、パソコンの前に張り付く時間が増えている、ということです。そう感じるのは私だけではないはずです。

思えば学生時代、ゼミで機械化や標準化の話になると、映画「モダンタイムス」が話題となったものです。ITやパソコンが幸せに満ちた夢の社会をもたらす、とはかぎりません。情報技術の進展も、情報や情報手段の独占や所有、リテラシー等の問題をはらみます。一同窓会のホームページの運営でそんなことに悩む必要はない、とも思いますが、表面的な利便性に目を奪われず物事の本質を見極め、その上で時代の要請に沿うことこそが文学部の卒業生に求められている、と言える力みすぎでしょうか。

言うまでもなく、文窓会は歴史のある同窓会です。会員には様々な方がおられます。年齢、職業、立場、志向などの多様性を持つ集団で、どんなホームページが期待されるのか。会員の皆様から、内容と技術、両面でのご助言もいただき、IT技術の変遷との兼ね合いを図りつつ試行錯誤する。その結果、電子媒体の特色をいかしたホームページに育てばいい、と思います。宜しくお願いします。

》 文窓会 <http://home.kobe-u.com/lit-alumni/> 《



## 東京支部便り

### 第6回文窓会東京支部総会

日 時 2009年2月26日 14時から17時まで

出席者 (敬称略・順不同)

松浦暢(30年)、小野幸次(32年)、竹歳一夫(32年)、  
広瀬祝子(32年)、高見秀史(33年)、稲見宗孝(33年)、  
安福信二(33年)、笹井明彦(34年)、河野房子(35年)、  
橋本静子(36年)、白藤禮幸(36年)、五味尚子(37年)、  
松澤昭史(40年)、稲葉昭典(42年)、羽田曉代(42年)、  
渡辺耕士(46年)、池上淑子(本部長、43年)、中野裕(36年)  
以上18名

※木曜会の講師の澤田隆治様(30年卒)が途中から参加された。

#### 全体討論形式を取った。

- 1)今後の文窓会東京支部の進め方:従来通り、木曜会の文学部の担当時に文窓会を開催することとした。
- 2)新役員選出:東京支部長:中野裕(36年卒)、東京副支部長:五味尚子(37年卒)、東京副支部長:松澤昭史(40年卒)を選出した。任期:2年。  
(長い間、支部長を務められた小野幸次様/32年卒、副支部長の河野房子様/35年には御礼申し上げます)

次回第7回の支部総会は文学部担当の木曜会の開催日の  
2010年6月24日(木)に開催予定。  
東京支部の皆様の多数の参加をお願い致します。

### 木曜会(文学部担当)

日 時 2009年2月26日(木) 18時から20時まで

出席者 全学部で50名。うち文学部は16名。

講師と講演内容 澤田隆治様(昭和30年卒、現在の役職:㈱東阪企画会長、㈱テレビランド代表取締役会長、㈱夕留スタジオ代表取締役社長、日本映像事業協同組合理事長、笑いと健康学会会長)

## 中部支部便り

### 第5回総会・懇親会

文窓会中部支部の第5回総会・懇親会が6月6日、名古屋・池下のホテル「ルブラ王山」で開かれた。神戸から参加の池上淑子会長、廣野幸夫幹事長を加え20人の会員が集まった。

あいさつに立った勝原博支部長は、昨年のホームカミングデイの様子を報告したあと、「欠席はがきの中にも、今回参加を予定していた方が何人かいた。文窓会の輪をさらに広げたい」と今後の発展に期待を示した。文窓会本部の池上会長は、会長就任のあいさつを兼ね文窓会への協力を要請した。引き続き第4期の活動報告、役員改選、会計報告が行われ、全員で了承した。

記念講演は磯部修三さん(昭和41年社会学卒)が「奇跡は2度起こった」のタイトルで、静岡県で高校教師に赴任後、高校野球の指導に携わり、監督として浜松商業でセンバツ優勝。常葉菊川では総監督としてセンバツで優勝した体験を基に、指導者の苦悩と喜びを語った。フィリピンに遠征したとき、現地の少年たちが笑顔で野球を楽しむ姿を見て、自らの野球観を発展させたことや、金属バットの導入が高校野球に革命的变化をもたらしたことなどを、ボードに書き示しながら熱く語った。

#### テーマ「笑いと健康」

澤田隆治様は、ラジオのプロデューサー、テレビのディレクターとして、「視聴率100%男」「お笑い界のドン」などと呼ばれたお笑い業界の王様で、その活躍ぶりはつとに有名であります。澤田様のあまたの経験を踏まえた講演は、非常に格調高く、且つ有意義なものでありました。

- ①今回の総会・木曜会の案内を下記のように出したが、「返事なし」が多い。今後返事なし撲滅を目指したい。ご協力下さい。  
A)イーメール:129名に発信(返事なし:80名)  
B)ハガキ:398名に郵送(返事なし:231名、住所不明者:34名)  
②今回本部から2008年度支援金5万円いただきこれにて通信費をまかなった。バックアップに感謝しています。

#### 今後の木曜会の日程

10月22日(木)医学部担当/11月26日(木)経済学部担当  
2010年2月25日(木)海科学部担当  
3月25日(木)理学部担当/4月(未定)教育学部担当  
6月24日(木)文学部担当

次回2010年6月24日の木曜会の講師を募集中です。自薦他薦での推薦をお願い致します。下記に連絡をお願い致します。

◎今後ともメル友には、東京凌霜会の催物(木曜会、特別火曜会、若手の会、ミドル会、音楽会、映画鑑賞会、ゴルフ会、新年互例会、忘年会などの案内をお送りする予定です。  
FAXでの連絡は、凌霜クラブから直接ご自宅に流す方法を取っています。新たにメールアドレスを取得された方は、下記に連絡をお願い致します。

(東京支部長 9回生 中野 裕)

〒223-0064 横浜市港北区下田町1-1-113  
電話(ファックス共用) 045-561-6317  
メールアドレス:y.nakano.1938-panda@d9.dion.ne.jp  
昭和36年卒(9回生) 中野 裕(文窓会東京支部長)

懇親会は廣野幹事長の乾杯発声で始まり、今年初めて参加した西山春香さん(愛知県安城市、平成12年西洋哲学学院卒)、杉山明宏さん(岐阜県大垣市、平成8年中国文学卒)、張勤さん(名古屋市、平成8年文化構造博卒)を囲み、思いの会話が弾んだ。来年6月開催される第6回総会での再会を誓って散会した。

この後、名古屋のデパート松坂屋の初代当主だった伊藤次郎左衛門の別邸だった揚輝荘を数人で訪れ、昭和初期の豪商の生活ぶりを見学した。

第6期役員 支部長 勝原 博(昭和43年、社会学)  
幹 事 瀬戸 一夫(昭和42年、芸術学)  
同 大西津南生(昭和42年、国史学)  
同 山田 伸司(昭和38年、英米文学)  
(中部支部長 16回生 勝原 博)





# 文学会(文学部同窓会) — 会計報告 —

平成20年度収支計算書(平成20年7月1日～21年6月30日)

収 入 総 額	7,573,216	(当期収入 4,325,964)
支 出 総 額	4,428,576	(当期支出 4,428,576)
差 引	3,144,640	(当期差引△ 102,612)

21年度予算書

(21・7・1～22・6・30)

収 入	7,896,640
支 出	7,896,640
	0

収 入 の 部	予算額	決算額	差 異	21年度予算額
会 費 納 入 金	4,000,000	3,600,000	△ 400,000	3,900,000
協 力 金	1,000,000	665,000	△ 335,000	800,000
利 息 金	1,000	24,964	23,964	2,000
総 会 等 会 費	80,000	36,000	△ 44,000	50,000
前 年 度 繰 越 金	3,247,252	3,247,252	0	3,144,640
積 立 金 取 崩 金	0	0	0	0
収 入 合 計 額	8,328,252	7,573,216	△ 755,036	7,896,640

支 出 の 部	予算額	決算額	差 異	21年度予算額
会 議 費	150,000	158,906	8,906	150,000
事 務 印 刷 費	50,000	55,939	5,939	60,000
通 信 交 通 費	150,000	140,360	△ 9,640	150,000
交 際 接 待 費	250,000	201,550	△ 48,450	250,000
協 力 金 費	1,200,000	1,113,900	△ 86,100	1,100,000
(学 友 会 費)	(200,000)	(116,000)	(△ 84,000)	(200,000)
(活 動 援 助 費)	(200,000)	(197,900)	(△ 2,100)	(400,000)
(学 術 助 成 費)	(800,000)	(800,000)	( 0)	(500,000)
会 報 費	1,700,000	1,541,249	△ 158,751	1,700,000
歓 送 迎 会 費	550,000	468,170	△ 81,830	500,000
(卒 業 生 対 象)	(550,000)	(468,170)	(△ 81,830)	(500,000)
(入 会 生 対 象)	( 0)	( 0)	( 0)	( 0)
総 会 幹 事 会 費	400,000	310,794	△ 89,206	350,000
事 業 活 動 費	500,000	381,183	△ 118,817	450,000
慶 弔 費	100,000	0	△ 100,000	100,000
雑 費	50,000	56,525	6,525	60,000
積 立 金	1,000,000	0	△ 1,000,000	800,000
施 設 改 修 寄 付	0	0	0	0
予 備 費	2,228,252	0	△ 2,228,252	2,226,640
支 出 合 計 額	8,328,252	4,428,576	△ 3,899,676	7,896,640

平成20年度財産目録(平成21年6月30日現在)

科 目	金 額	
I 資産の部		
(1) 通常会計流動資産		
現 金	9,337	
普通預金	20,642	(中央三井信託銀行)
普通預金	106,132	(みなと銀行)
普通貯金	1,500,829	(脇浜郵便局)
郵便振替	1,507,700	
		3,144,640
(2) 特別積立金		
定期預金	8,000,000	(みなと銀行)
"	1,000,000	(みなと銀行)
"	1,500,000	(みなと銀行)
定額郵便貯金	8,210,000	(郵便局)
		18,710,000
II 負債の部		
(1) 流動・固定負債	0	0
III 正味財産合計		21,854,640

事業年度に係る決算報告書を監査した結果、  
適正であることを認めます。

平成21年8月31日

会計監査 鞍 井 修 一 印

会計監査 西 川 京 子 印



気ままに本を開いたり  
まぶしい空・街・海を眺めたり  
友と語り合ったり



あなたも、ときどきは  
心の、木陰のベンチに腰掛けて  
あの頃に戻ってみませんか。

## 神戸大学学友会のご案内

神戸大学学友会は各学部同窓会の相互交流と大学の発展に寄与するため、同窓会の連合体として組織され、各学部同窓会から選出された人々による幹事会で運営されています。

具体的な活動としては、幹事会や大学役員との懇談会のほか、大学広報誌(KOBE university STYLE)編集委員会、神戸大学クラブ(KUC)運営委員会、データベース委員会などです。現在、学友会を構成している同窓会は下記のとおりです。

学友会会長は高崎正弘凌霜会会長、相談役は前会長の新野幸次郎氏、事務局は神戸大学企画部社会連携課となっています。

神戸大学学友会を構成している同窓会

- 文窓会(文学部)
- 紫陽会(教育学部・発達科学部)
- 社団法人 凌霜会(経済学部・経営学部・法学部・国際協力研究科)
- くさの会(理学部)
- 社団法人 神緑会(医学部医学科)
- 就進会(医学部保健学科)
- 社団法人 神戸大学工学振興会KTC(工学部)
- 六篠会(農学部)
- 翔鶴会(国際文化学部)
- 海神会(海事科学部)

### 「神戸大学クラブ」(K・U・C)に入会しませんか

神戸大学卒業生が学部の壁を越えて、交流をはかり親睦を深める集いがK・U・Cです。神戸、大阪、東京でそれぞれ別々にいろいろな活動を展開しています。神戸K・U・Cは元町の牡丹園に事務所を開き、講演会、読書会、ゴルフ、旅行など、楽しい催しを実施しています。

ご入会ご希望の方は **TEL 078-334-1323** までご連絡ください。詳しいパンフレットをお送り致します。

(K・U・C運営委員 日高 健一)

### 編集後記

忘れた頃にやってくる?年1回発行の「文窓」誌は、9回生の鞍井修一前編集長と補佐の20回生の中西みな子さんの尽力で創刊されました。今号から、18回生(入学時)の私と16回生の武藤さんが引き継ぎました。年1回ながら、神大における文学部同様に「小粒でもちょっぴり刺激的」な情報発信を、web新担当の32回生の坂本さんとも連携して進めてまいります。めざすは、KOBE>六甲>文窓のブランディング!さて、野望や、如何に?

(たなかむつこ)

今年度から文窓会の会長が替わり、この文窓(ふみのまど)の編集委員も新しくなりました。むつこ編集長にみやこ編集助手です。相談して、新しい息吹を吹き込み、若い方々にも読んでもらえる会誌にとアイデアを出しました。そしてできたのがこの第7号です。会誌を身近に感じ、文学部時代を懐かしんでいただけるでしょうか。一人でも多くの同窓生に読んでもらえる会誌ができればと願っています。自分たちの会誌にするために、応援と情報提供をお待ちしています。

(むとうみやこ)